

## 令和3年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：山口県教育委員会

### 1. 事業の実績

#### (1) 事業目的

幼稚園教諭免許法認定に係る講習を開催することで、幼稚園教諭の一種免許状所有者の割合の増加を図り、幼稚園教諭の資質能力の向上及び幼児教育の質の向上をめざす。

#### (2) 事業概要

幼稚園教諭免許法認定のための免許法認定講習を、以下の通り開設した。

	開設科目名	講習期間	講習会場	定員
1	保育内容指導法（表現）	7月27日～28日	KKR山口あさくら	30人
2	幼児心理学	8月4日～5日	防長苑	30人
3	幼児と言葉	8月10日～11日	防長苑	30人
4	保育内容指導法（環境）	12月11日～12日	セミナーパーク	30人
5	教育心理学	10月30日～31日	パルトピアやまぐち	30人
6	教職論	11月6日～7日	セントコア山口	30人

令和元年度の免許法認定講習の開設以来、毎年5講座を開設していたが、令和3年度においては、受講機会を拡大するため1講座増やし、6講座を開設した。

「保育内容指導法（環境）」「教育心理学」については、夏季に実施予定であったが、県内で新型コロナウイルス感染症が拡大し、受講者の参集が難しい状況になったことから、10月と12月に期日を変更して実施した。

(3) 成果（事業の実績の説明）

①本事業を活用して開設した講習について

令和3年度においては、以下の内容で講習を実施した。

	開設科目名	講習内容（概要）
1	保育内容指導法（表現）	<p>1 表現とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○領域「表現」に係る現代的課題</li> <li>○新しい学習指導要領がめざす姿</li> </ul> <p>2 子どもの発達と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○領域「表現」のねらい</li> <li>○領域「表現」における発達と学び</li> </ul> <p>3 感性と表現を育む保育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○造形表現 ○身体表現 ○音楽表現</li> <li>○遊びや生活の中にみられる子どもの表現 等</li> </ul>
2	幼児心理学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児の発達 ○愛着と親子関係 ○学習と動機づけ</li> <li>○情緒と欲求 ○子どもの認知的メカニズム</li> <li>○ことばとコミュニケーション ○対人行動 ○社会的認知</li> <li>○取り巻く世界についての理解 ○発達のつまずき</li> <li>○子どもの発達を理解することの意義</li> <li>○保育実践の評価と心理学 等</li> </ul>
3	幼児と言葉	<p>1 言葉の発達過程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前言語期 ○一語文以後</li> </ul> <p>2 言葉の意義や機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニケーションとしての機能 ○文字の機能</li> </ul> <p>3 言葉に対する感覚を豊かにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉遊び</li> </ul> <p>4 言葉の発達における児童文化の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本 等</li> </ul>
4	保育内容指導法（環境）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園教育で育みたい資質・能力</li> <li>○幼稚園教育要領のねらい・内容と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」</li> <li>○保育内容「環境」とは ○「森の幼稚園」の実践に学ぶ</li> <li>○子どもたちの自然とのかかわりを支える</li> <li>○安全教育：子どもたちの命を守るために</li> <li>○「子どもだけに見える世界」を体験する</li> <li>○子どもたちの物や遊具とのかかわりを支える</li> <li>○子どもたちの数量・図形・標識・文字等とのかかわりを支える</li> <li>○ 文化や伝統にどのようにふれていくか 等</li> </ul>

5	教育心理学	○乳児期から幼児期までの心の発達 ○子どもの発達 ○愛着と愛着行動 ○非認知的能力の発達 ○自己肯定感とは ○選択理論心理学 ○外的コントロールと内的コントロール ○人間関係をよりよくする7つの習慣 ○気になる子どもにどのように接したらよいか 等
6	教職論	○幼稚園教育要領について ○保育の質について ○育みたい資質・能力について ○遊びの理論に基づく環境の構成と保育者の援助 ○マネジメントとはなにか ○デミング・サークルとPDCAサイクル ○OODAループ ○U理論 ○保育所におけるリーダーシップ ○PM理論 ○フォロアーシップ 等

「幼児心理学」、「幼児と言葉」、「教育心理学」については、当初対面で計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、県外在住の講師と会場（受講者は参集）を同時双方向型オンラインで接続して実施した。

受講料は、いずれの講習も1,550円とし、単位修得証明の発行手数料を700円とした。

## ②受講者数及び単位修得者数

受講者は、実数43人、延べ147人であった。開設科目別、受講講座数別、年齢別、所属別、経験年数別の受講者数は、以下の通りであった。

開設科目名	申込者数	受講者数	単位修得者数
保育内容指導法（表現）	22人	22人	22人
幼児心理学	27人	27人	27人
幼児と言葉	33人	33人	33人
保育内容指導法（環境）	19人	14人	14人
教育心理学	32人	25人	25人
教職論	27人	26人	26人
合計	160人	147人	147人

申込数は、おおむね想定通りであり、全ての受講者が単位を修得することができた。

しかし、前述したとおり、山口県内の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い「保育内容指導法（環境）」「教育心理学」については、日程を夏季から10月と12月に変更したため、園行事や園務の関係で受講できなくなった申込者が複数おり、受講者の減少につながった。

また、令和元年度にも開設している「保育内容指導法（表現）」、「保育内容指導法（環境）」については、受講申込が少ない傾向が見られた。申込が少ない講座については、再募集を行ったが、今後バランスよく講座を開設していく必要がある。

受講講座数別 (実数43人)	年齢別 (実数43人)
1 講座受講・・・ 6人	20代・・・・・・ 3人
2 講座受講・・・・12人	30代・・・・・・14人
3 講座受講・・・・ 7人	40代・・・・・・13人
4 講座受講・・・・ 3人	50代・・・・・・12人
5 講座受講・・・・ 6人	60代以上・・・・ 1人
6 講座受講・・・・ 9人	
所属別 (実数43人)	経験年数別 (アンケート回答142人)
県内国公立園・・・・4人	1～ 5年・・・・9人
県内私立園・・・・38人	5～10年・・19人
その他・・・・・・1人	10～15年・・30人
県外・・・・・・0人	15～20年・・40人
	20年以上・・・・44人

受講講座数別の受講者数を見ると、複数の講座を受講する教諭が多く、上進に対する意欲が高いことがうかがえる。

経験年数別受講者数を見ると、10年以上経験教諭が全体の80%以上を占めている。皆、熱心な受講態度で、講習の内容を園での経験と結び付けながらとらえたり、学んだ内容を今後の実践に積極的に生かそうとしたりする様子が見られた。こうしたことから、認定講習が、一種免許状の取得のみならず、主に中堅以上の幼稚園教諭にとって、専門的且つ最新の内容についてじっくりと学び、自分の保育を見直すことができる研修機会にもなっていると考える。

#### ④幼稚園教諭等一種免許状に上進した教員数

山口県教育委員会では、令和元年度から国事業を活用して幼稚園教諭免許法認定講習を実施しており、今年度で3年目を迎える。この3年間で10単位以上を修得した教諭は35人であり、うち、令和4年1月末時点で一種免許状に上進済みの教諭は18人であった。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う日程変更により、10月以降に実施した認定講習の受講証明を1月に発行していることから、例年より上進の手続きが遅くなっている。今後、年度末から来年度にかけて上進者が増えるものと考えている。

幼稚園免許法認定講習の実施により、上進に必要な単位を修得している幼稚園教諭は着実に増えている。単位の修得には一定期間を要することから、一種免許状所有者の割合増加のためには、今後も継続的に認定講習を開設することが必要である。

#### ⑤受講者の反応

受講者のアンケートでは、「何気なく行っている子どもとの関わりの一つ一つに意味があることを、様々な理論から知ることができた。」「日常の保育を理論と照らし合わせながら見ていくことで、自分自身の振り返りができ、課題も見えた。」「コロナ禍で研修がなかなか

かできない状況で、認定講習を受講することにより、保育の見通しがもてた。」等、講習内容に満足し、学んだことを日々の教育に生かそうとする意見が多く、受講が幼稚園教諭としての資質能力の向上につながっていることがうかがえた。

また、受講者からは、「コロナ禍でも、講師がオンラインを活用して開講してくださり、ありがたかった」「数年かけて、計画的に必要な単位を修得する予定なので、今後も続けてほしい」等、開講を求める声が多く聞かれた。また、園から一度に多くの教諭が参加するのが難しく、隔年で受講しているケースも見られた。今後も継続して認定講習を開設し、上進への意欲がある教諭へ受講機会を提供していきたい。

#### ⑥検討委員会の意見

1月に行った検討委員会では、以下のような意見が出た。

(講習の開催方法・内容について)

- ・他の研修では、オンラインやオンデマンド配信が活用されている。認定講習でも、活用できないか。
- ・オンラインで開催すると、園や市町によっては、受講環境が整っていないことがある。実施にあたっては配慮が必要となる。
- ・中堅教諭や主任の関心が高い内容を講習で実施してほしい。マネジメントに関する講習は現場のニーズも高い。
- ・これまでに開講した講習を踏まえながら、バランスよく開講していくことが必要である。

(受講促進について)

- ・受講しやすい環境（職専免にする等）づくりが必要となる。
- ・国公立の幼稚園の参加が少ないので、周知をしていく必要がある。
- ・研修の機会が飽和しているように感じる。本当に必要な研修を精選していくべきだと感じる。
- ・教員免許更新が今後廃止となる。それに代わる研修として、認定講習はスキルアップの貴重な機会になるのでは。

(開催期日について)

- ・夏季休業中の方が参加しやすいという声がある。
- ・2日間続きだと、どちらかの日程が参加できないということもある。
- ・夏季休業中に集中すると参加が難しいということであれば、夏季休業と秋に同じ講座を2回開催することも考えられる。
- ・講師を派遣する大学側としては、前期課程が終わった7～8月にかけて実施する方がよい。秋になると教育実習がかかってくる。

#### (4) 今後の課題・展望

##### ①認定講習の開催方法について

今年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大した時期に、県外在住の講師と会場（受講者は参集）とを双方向型のオンラインでつないで講習を実施し、受講機会の確保に努めた。

来年度は、受講者もオンラインで参加できる講習を開設することで、受講機会を確保しつつ、受講者の感染症への不安と移動に係る負担の軽減に努めたい。

### ②認定講習の内容について

演習やグループ協議を取り入れた一部の講習では、「講義のみならず演習もあり、体感しながら学びを深めることができた」「子どもの立場に立って演習を行うことで、保育のヒントを得ることができ、日々の保育にすぐに取り入れたいと思った」「講義のあとに協議を行うことで、講義内容をより深く、様々な視点から考え、理解することができた」「グループ協議で他の先生方の考え、他園の取組等聞くことができ、非常に有意義だった」等、肯定的な意見が多く見られた。来年度は、講師と事前に十分な打合せを行い、より多くの講習で演習や協議を計画的に取り入れ、効果的な講習を実施したい。

### ③認定講習の日程について

日程に関する受講者アンケートでは、「夏季休業中が参加しやすい」という声がある一方で、「夏季休業中も認定こども園は保育があるため、講習が夏に集中すると、一度に複数受講できない」「休みを取らなければならない平日よりは、土日の方が参加しやすい」等の声も聞かれた。来年度も、実施時期を分散するとともに、一部講座は土日に開設することで、多様なニーズに対応し、受講者がより参加しやすい環境づくりに努める。